

平成30年度 呉市復興計画検討委員会 第3回会議摘録

1 日 時 平成31年2月13日（水）10時～11時55分

2 場 所 呉市役所本庁舎 752～754会議室

3 概要・骨子

10:00

【市長挨拶】

呉市長の新原でございます。

今日は、貴重なお時間を割いてご出席いただきありがとうございます。

第1回、第2回の委員会で頂いた貴重なご意見を踏まえて、本日は事務局案としての呉市復興計画（素案）をまとめましたので、それをお示ししてご議論をいただきたいと思っております。

第2回委員会では、天応・安浦の現地視察を行いますとともに、商工業者の方、委員から被害の状況について説明していただきました。また、東京大学復興デザイン研究体から調査結果のご紹介もいただきました。そして、復興計画（骨子）も見ていただいご意見をいただきました。その他、自治会等との意見交換会を行う計画をお示し、その時点での意見の概要もお示しし、ご議論をいただきました。

本日は、復興計画（素案）について、率直なお考えをお聞かせいただき、この素案をもっと良いものに、市民の皆さんの気持ちに沿った復興にしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

10:05

【議題1】

「呉市復興計画（素案）について」第1章「呉市の被害状況」に関する説明。

委員からの主な意見は次のとおり

- 豪雨の概要については、土木学会の中国支部が中心になってまとめた西日本豪雨災害調査団報告書の中で呉市に関係がある部分を抜粋に近い形で作成している。
また、出典の部分をもう少し詳しくしていただきたいと思う。
- 計画書22ページの被災建物、宅地内土砂・がれきの撤去では、12月31日時点の申込件数を示しているが、件数は日々増えている。欄外には日付を記載してあるが、本文にも、時点を明記したほうが誤解のないと思う。
- 農林水産業の農業関係の被害額について、難しいかと思うが少ないように感じる。農水産の被害額がこんなものではないと思う。

「呉市復興計画（素案）について」第2章から第4章，附属資料に関する説明

委員からの主な意見は次のとおり

- 全体的には，幅広い取組について丁寧に，正確に記載されていると思う。この計画をもとに事業化に当たって，効率よく事業をやっていくことが大事だと思う。
その上で，1点，計画書28ページの基本方針「3 産業・経済の復興」で観光について記載しているが，一般的に言う観光振興の取組は，観光プロモーションと地域の観光素材を作るといふか磨くといふことを車の両輪のように両方やっていく必要がある。インバウンドも含めてこれからのことを考えると地域の素材を観光素材とする取組がいると思う。具体的に言えば，観光復興に向けた観光プロモーションの展開や被災を受けて地域の良さを再認識し，改めて新たな観光を掘り起こすとか観光素材を作るとか，その機運を高め，来訪客の増加を目指すという面が必要ではないかと思う。
- 子どもたちの防災教育も必要だと思う。親子で地域を歩き，住んでいる地域で危険な場所や避難経路を知る・学ぶ場があったら良いと思う。地域の高齢者への声かけなども子どもたちができたら良いと感じた。
- 基本方針4「今後の防災・減災に向けた取組」に関して，防災教育はすでに行われていると思う。避難しない人をどうするのか，根本的なところを見ないといけないと思うので，これまでのあり方と違うものを出しても良いのではないかと思う。
- これだけの計画を進めていくための予算の確保，財政をどのように強化していくかがあっても良いと思う。土木施設などは，国などの支援もあると思うが復興の事業には莫大な予算がかかると思う。市全体で財政の基盤強化に取り組んでいくというメッセージを出せると良いと思う。
- 計画書28ページに災害に強い安全・安心なまちづくりとあるが，安浦では浸水被害があった。過去の枕崎台風の際には安浦地区では今回の災害以上に水没していたと聞いている。その時は野呂川ダムもなかったし，市原地区では，20名の方が亡くなった。70数年前にそういった災害があったわけで，その後に野呂川ダムができた。現在，川に流入した土砂の撤去を行っているが，根本的に見て，安浦の河川が今の河川で災害を防ぐことができるか，河川の大きさが今のままで，十分災害に耐えられるか検証が必要だと思う。これは安浦地区に限らず，天応地区においても，地形に合わせて河川が今後の災害に耐えられるのかを考えて，今後，強いまちづくりを進めていかなければならないと思う。
- 総論として，人を他から集める，人口増につなげる，あるいは，企業を集めて経済を発展させる方針を理念の中で打ち出してほしいと思う。背景として，携帯の電波を使って，場所ごとに実際に活動している人がわかるようになっており，豪雨災害以降に呉市内で活動する移動人口が数%減り，夜の人口も同じように数%減っているのので，経済振興や定住を強調しても良いと思う。

- 計画書 45 ページ施策 2-4 交通基盤の強靱化（1）交通の強化・確保・渋滞対策
①災害に強い交通体系の整備で、道路については4車線化について記載しているが、呉線も同じようにもっと機能強化を打ち出してもらいたい。呉線もクリアラインの4車線化と同じくらいインパクトのあることを打ち出すべきかと思う。
- 計画書 53 ページ施策 4-1 防災・減災に向けた体制の強化（2）未来への継承①防災意識の向上と情報発信にあるように、今回の災害の経験を風化させないことが重要だが具体化するのが難しい。企業の方と話す中で、今回の災害から多くの人が公共交通の重要性に気づいたという意見がたくさんあった。企業 BCP（事業継続化計画）を作っていく中で、市として従業員の通勤等に公共交通に関する項目を入れるよう働きかけをするなど、もっと渋滞対策を認識してもらいたいと思う。また、1年に1回程度、車を使わない通勤の訓練を行うことで、災害の経験を風化させない一つの形になると思う。
- 地域防災計画の中に、公共交通に関する記載が少ないと思う。今回の災害での対応は非常に良かったと思うので、国・県・市・バス事業者との連携のとり方等の経験を記載しても良いのではないかと思う。
- 災害に対して先行投資をして、災害発生時に被害の軽減に役立った事例はいくつかあると思う。例えば、呉市役所が前の庁舎だったら、これだけの対応ができていなかったかと思う。今後、かなりの投資が必要になるので、これまでの投資に対する効果を検証しておいた方が、計画が円滑に進むのではないかと思う。
- 天応地区で気になっている点がある。第2回委員会で現地視察を行って、3か月がたったが、どこが変わったかがわからない。計画書に見える化について記載しているが、事業の遅れ等もあると思うが、より具体的な見える化やきめ細やかなタイムスケジュールを示すことが重要だと思う。
- これまでの地域からの要望や意見交換会での意見を盛り込んだ計画となっていると思う。
- 井戸の件については、今月末までに各地区から場所等の取りまとめを行う予定で、地域の中で、井戸の欲しい場所等の要望を含めて、来月には提出させてもらいたい。
- 計画書 37 ページ施策 1-3 廃棄物・土砂処理（1）被災家屋撤去及び土砂混じりがれき撤去と（2）災害廃棄物・土砂等撤去処理はともに「撤去」となっていて、わかりにくいと思う。
- 計画書 51 ページ施策 4-1 防災・減災に向けた体制の強化（1）防災力の向上①情報伝達方法の見直しとあるが、伝達方法だけでなく、地域が必要としている情報の充実も重要だと思う。水位計や砂防センサー等の情報公開など、防災情報そのものの充実や拡充も行うような表現で、例えば、「情報伝達方法の見直しと防災情報の充実、または拡充」などでも良いと思う。

- 地区計画の位置づけが明確になると良いと思う。26 ページには、地区計画の位置づけが記載されているが、31 ページ、51 ページを見たときに地区計画がどのように進んでいくのか把握しにくいと思う。
- 地形や自然条件を考慮することが必要なのかと思う。地区計画のゾーニング等を行っていくときに、全体の基本理念とか方針に少し入っていると良いと思う。
- 防災情報をいかに早く伝えるかも重要だが、防災情報そのものの充実も検討の余地があるのではないかと思う。
- 呉市は、立地条件、地形的な特徴があるところに、特徴のある発展の歴史があり、全国的にも他にないまちだと思う。ただ人口がこれほど多いまちなのに、空港や新幹線への交通の便が悪かった。東広島呉道路の開通や他の交通網も整備され、改善しており、風光明媚な景観を有している一方で、依然として地形的に自然災害を受けやすく、孤立しやすい条件の中で、孤立しないような道路等を整備することは一層重要であると思う。そういう意味でも、広島呉道路の4車線化は、非常に重要であって、今後、起こる可能性のある地震などでも自動車専用道路は、災害に強く整備されている。危機管理上も広島呉道路の4車線化を確保することに力を入れていただければと思う。
- 河川の増水は、目で見ることができるが、土石流などの土砂災害は災害が起こるまでわからないことが多い。砂防ダムは、災害が起きるまで関心が少なく、状況が見えにくいいため、市が土砂の堆積状況などの情報を把握して、市民に提供することで、関心を持ってもらうことが、早期避難につながると思う。広島大学地理学の研究グループが集めている航空写真を使って、土砂が動いたかを調べたデータは重要だと思う。住宅等が被災した場所以外にも、山の中で土砂が動いていることを把握している。例えば、こういった情報を日頃から市民に提供することが、避難に結びつくし、避難したが何事も起きなかった場合でも、山の中で土砂が動いたことを知っていれば、納得して次の避難にもつながると思う。
- 自分の住んでいる住宅が、土砂災害特別警戒区域の指定状況がどうなっているかを把握していると思うが、道路がそもそも警戒区域に入っているところも少なくない。道路や自分の通う学校や職場についても、日常的に意識しておくことが必要ではないかと思う。今回、川尻の水道施設が、土砂災害警戒区域内にあり、今回被災したことで断水が続いたので、改めてしっかりと考えていかないといけないと思った。
- 今回の災害では、早期の通行止めが功を奏して、山陽道や広島呉道路で土砂崩れ等があったにもかかわらず、人的被害が出なかった。今後、大雨特別警報が出るような大規模な災害が想定される際は、地理的な条件がある呉市では、市として通勤・通学をやめてもらうような対応を考えても良いと思う。

- これまでの検討委員会での意見が反映されていると思う。計画書 35 ページの子ども・子育て支援のところで保育所に対して復旧・復興の支援を行うとあるが、私の子どもが通う保育所が被災し、仮移転しているが、元の保育所から離れたところであり、寒い日には坂道の凍結していることやいつ帰れるかもわからないこともあって、保護者から不満が出ている。
- 井戸水の活用について、災害時に使うことができるかの調査に来られ、早速動かれているのを実感した。調査結果を早くまとめてもらい、市民に周知できればと市民が不安にならないと思う。
- 他の委員の意見で、訓練で通勤に車を使わないことは、私も必要だと思う。市民一人ひとりが車の使用を控えるなど、ちょっと意識することで、温暖化を防ぐことができるのではないかと思う。復旧・復興が落ち着いたら、呉市と市民が一緒になって環境保護についても考えることも大切だと思う。
- 基本理念に魅力的な都市を目指すとある。魅力的な都市というのは、住みたくなるまちであり、子どもを育てたくなるまちであって、次の世代に残したいまちだと思う。人口の自然減が多い呉市で、観光客を増やすだけでなく、よそから呉に住んでもらうことが重要であり、基本理念に強く記載してほしいと思う。
- 基本方針4「今後の防災・減災に向けた取組」に呉の次世代に向けた教育とあるが、今回の災害でボランティアに参加した3万9千人うち、半分以上が市外、4割くらいが市内からの参加だった。今後に向けて、若い人に防災教育を行うとともに、市外に向けて呉の復旧・復興がどのように進んでいるのかを発信することも大事だと思う。今後、他都市で災害が起こった際に、今回の災害の経験を生かして、呉市として何ができるかを考え、伝えていくことも重要なことだと思う。
- 災害に対する避難の教育について、学校でも梅雨時期の前に避難に関する教育を実施しており、いろいろな状況で、何かあったら自分たちで状況判断をしないといけないということを先生たちも周知してくれている。危険な時はどうするのかを、家族でよく話し合うように授業でも取り組んでいて、低学年の子どもからも避難の話が出てくるので、効果が出ていると思う。今回の豪雨災害で亡くなった人がいること、避難したこと、断水が続いたことなどの経験が子どもたちの心に残っているので、継続して防災教育に取り組んでほしいと思う。
- 被災者の支援について、細かく書いていると思う。
- 未来への継承は、大事だと思う。今回の災害ももう過去の災害となる。これまで枕崎台風で、1,100人を超える死者が出て、昭和42年災害で88人の死者が呉市内で出ている。だんだん被害が少なくなっているのは、防災工事のお陰かと思うが、記録誌を作って継承していくことが大事でないかと思う。

○ 今回の災害でお世話になった静岡県では、過去に富士山の噴火ぐらいしか大きな災害が起きていないのに、熱心に取り組んでいるのは、南海トラフ地震を想定して日々取り組んでおり、いろんな災害を見て今後に備えるという大きな流れがある。そういう意味では、他都市で災害が発生した時に職員を派遣して勉強していくことも大事だという気がした。

以 上

11:55
会議終了